

1 有識者懇談会全体の流れ

- 第1回: 有識者懇談会の各委員・出席者からの視点や課題の提示
- 第2回: 科学技術外交施策の現状の把握(棚卸し)及び課題の整理
- 第3回: 今後の科学技術外交における目的・考え方の検討
- 第4回: 上記の目的及び戦略を踏まえた具体的な施策や実施体制の検討
- 第5回: 有識者懇談会の報告書(案)の検討・とりまとめ

2 第3回会合の流れ

(1) 冒頭プレゼンテーション

① 原山CSTI議員

国際会議等の場において、各国科学技術顧問等との間で国際的に重要と考えられるテーマが議論される例をご自身の体験を交え紹介。

② 岩永委員

新興国におけるSATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム)の現状と課題について、具体例を交えつつ紹介。

③ 堀江元駐マレーシア大使

新興国において求められる科学技術分野におけるニーズについて、工科大学支援を中心とした具体例を挙げて紹介。

(2) 意見交換の流れ

科学技術外交の目的として以下の議題を提示。

① 国際社会におけるアジェンダ・セッティングでの我が国の指導力の発揮

- 今後重要性を増すアジェンダの特定(※)。さらに、我が国が指導力を発揮すべきアジェンダを恒常的に特定する「仕組み」の必要性。

(※) 例えば、環境(防災・レジリエントな社会、気候変動等)、社会(食料、医療・保健等)、

技術(ビッグデータ、サイバーセキュリティ等)をはじめとするグローバル・リスクへの対処

- 国際的な科学技術動向をつかむ科学者のネットワーク拡充(トップクラス、シニア、若手等の知的交流等)

- 外交当局に対する科学的知見のインプット強化(外務省における専門家の活用・育成)

② 対新興国外交における我が国の科学技術の一層の活用

- 国際的評価の高いSATREPS(地球規模課題対応+途上国支援/研究+経済協力)の方向性

- 新興国における人材育成支援(研究者のみならず、政策人材の養成も課題)

→ 工科大学の整備支援, 研修・交流事業, 相手国行政機関支援

- 日本発の基準・規格の普及

- 相手国の長期的ニーズを踏まえた協力(=効果の持続性)

→ 持続的成長, 包摂的成長(格差是正を伴うような成長)への貢献